

◆素敵な図書館めぐり◆

倉敷中央病院図書室紹介

玄馬寛子

当院の創設者、大原孫三郎は、日本初の西洋美術中心の私立美術館である大原美術館の創設者でもあります。そのような関係もあって、院内には大原美術館に所縁のある美術品が至る所に展示されており、図書室にも陶板や本の装丁が展示されています。今年の新人研修で理事長の大原謙一郎は、当院の理念にある「全人医療」について、「技術だけで人間の健康を保つことはできない。全人医療とは、人格をすべて見るものです。患者さん、ご家族とのコミュニケーションには傾聴が大事です。そのような人間的な事を身に着けるためには何かしら文化、芸術、人文学に親しんで自分の人格を磨いてほしい。」と推奨しました。僅かではありますが、図書室にある医学に直接関係のない分野の本や、医学古典のゲッチンゲン文庫、院内の植物や美術品に日々触れることで、そういったことを養える環境にあると感じています。

当院には創設時の1923年より職員専用の医学図書室があり、和洋合わせて271誌の雑誌を購読していました。このような学術情報

を重要視する風土は創設時から95年を経た現在も受け継がれています（2018年現在の職員数：医師490人、看護師1,314人、全職種計3,153人）。

図書室は2013年の3棟造築時に移転し、従来の4倍程度の広さになり閲覧席は100席に増えました。PCも3台から15台に増え、利用者の増加はもとよりその用途も大きく変わりました。2代目の理事長は、患者さんの療養環境をよくするために「入ったらすぐに治るような病院を作りなさい」と設計士の方に指示したそうですが、3棟造築部の職員専用エリアは、病院の「職員にも患者さんにするのと同じようにいい環境で仕事をしてもらいたい」という思いのもと造られました。職員満足向上により各々のパフォーマンスが上がることで患者さんによい医療を提供できるようになることを目指しています。現在の図書室のコンセプトは、「職員が主役の、職員の集まる場所」です。以前の図書室は閲覧席やPCが少なかったため、だれもが利用できる場ではありませんでしたが、現在は職種を問わず、多くの職員が業務、研究、雑誌の閲覧、休憩、打ち合わせなど様々な用途で利用しています。

GEMBA Hiroko

倉敷中央病院 人材開発課 図書室

TEL : 086-422-9234 FAX : 086-422-9271

hg13353@kchnet.or.jp

I. 特徴

1. 24時間開室

担当者在席 8：45～17：00

2. 基本はセルフサービス

様々な勤務形態の職員が利用しやすいよう、カウンターが無人でも基本的な手続きは各自できるようにしてあります。文献複写申し込みは、メールで24時間受け付けており、図書/雑誌の貸出、返却、到着文献の受け取りはセルフサービスです。

3. 文献取り寄せ0円

一部の高額文献を除き、全額病院負担です。

4. 「医学図書エリア」と「スタッフ交流エリア」

図書室は、静かな医学図書エリアと飲食可能なスタッフ交流エリアに分かれています。

医学図書エリアは、医学雑誌、医学図書、PC席があり、飲食禁止です。

スタッフ交流エリアには、福利厚生の一環で新聞やファッション誌などの一般雑誌を配架しており、飲食可能です。ソファ席もあり、休憩、気分転換など業務以外でも自由に利用できます。移動可能なテーブルを組み合わせ人数に応じたミーティングやランチミーティングもできます。また、焼き立てパンやオリジナルスムージーを提供している職員用カフェに隣接しており、飲み物を片手に職員だけでなく実習生や来客の方とも和やかな雰囲気では話も弾んでいるようです(図1～3)。



図1 職員用図書室エリア



図2 スタッフ交流エリア



図3 PC席

5. アクセスしやすい

同フロアには医局や会議室、カフェが配置されており、職員の動線上にあります。

6. 充実した蔵書構築

大学図書館にも引けを取らない充実した学術環境の整備を目指し、研修医教育に重点を置いたデータベース契約をしています。

II. その他

1. 各種セミナー開催

職員が講師を務めるデータベースの利用説明会や文献検索セミナーを開催しており、外部講師を招くこともあります（図4）。



図4 データベース利用説明会

2. 広報誌の発行

年に数回、「図書室だより」を発行し、データベースの紹介や、ID/PW 変更のお知らせなどの情報を配信しています。最近では、職員にジャンルを問わずおすすめの本を紹介してもらって連載を始めました。

3. ゲッチング文庫

ゲッチング文庫とは、ドイツのゲッチング大学が所蔵していた16～19世紀の西洋古典医学文庫3,862冊のコレクションです。

当院の創設者、大原孫三郎の指示で第二次世界大戦後に購入し、創設者が同じである労働科学研究所に保管されていましたが、当院の75周年記念に移管されました。杉田玄白ら

が翻訳した「解体新書」のドイツ語の原書や「血液循環の原理」（ウィリアムハーベイ著）の初版本、世界最初の医学雑誌「ジュルナル・デ・サヴァン」なども含まれています。現在は、職員専用フロアに展示してありますが、将来的にはより多くの人にも見てもらえるような活用を検討しておりますので、楽しみにしてください（図5）。

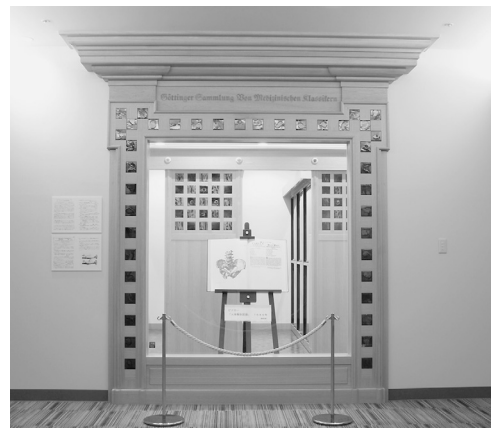


図5 ゲッチング文庫

4. 展示コーナー

創設者や大原美術館関連の書籍や記事など、当院ゆかりのものを展示しています（図6）。



図6 展示コーナー

急速な電子化とともに、図書室に求められるものもここ数年で大きく変わったため、現在図書室のレイアウト変更を検討しています。日々世の中が変化している中で、ただ同じ状

態であるということが歪になってしまうこともあると思います。「図書室」という場所や言葉の概念にとらわれず、より実用的な新しい価値を生み出していけたらと思います。